

二〇一九年

湊田開府四〇〇年

湊田城とその城下



浜田藩とその歴史

元和5年(1619)、三重県の松坂藩から古田重治が浜田に転封し、5万4千石の浜田藩が成立しました。重治は城下町の建設や藩政の土台を築きました。しかし、2代重恒に跡継ぎがいなかったため、改易されました。

替わって、慶安2年(1649)に松平(松井)周防守家が入り、広島県の福山藩とともに、中国地方の押さえとして、重要な役割を担いました。また、城下町の整備や藩札の発行、新田開発も行われました。

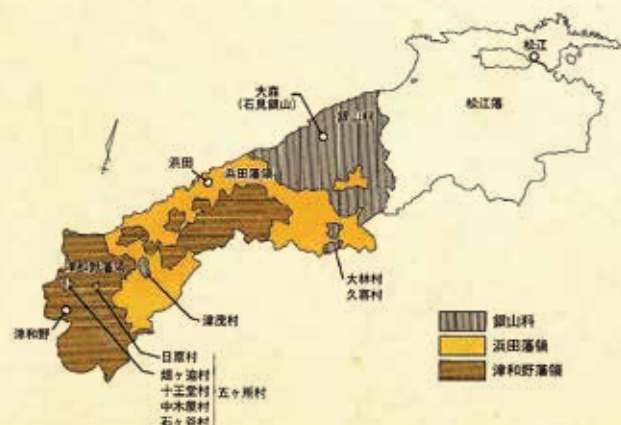
宝暦9年(1759)、周防守家に替わって本多家が入りましたが、10年後の明和6年(1769)に、再び周防守家が戻りました。11代康福、13代康任は老中首座として幕府中枢で活躍し、12代康定は本居宣長との交友や藩校を創設しています。この時期には植林やたたら製鉄、石見半紙などの産業振興が図られたほか、外ノ浦、瀬戸ヶ島、長浜の港も発展しました。

天保7年(1836)、松平(越智)右近将

監家が6万1千石で入りましたが、慶応2年(1866)の第二次幕長戦争(石州口の戦い)で大村益次郎率いる長州軍と戦い、敗れたため、再興を期して自焼退城し、岡山県の津山にあった飛地に移りました。一方、浜田は長州藩の支配地となりました。

初代	古田家	古田重治	1619 ~ 1623	〈外様〉伊勢国松坂より転封。城下町を築くが断絶。
2代		古田重恒	1623 ~ 1648	
3代	前期 松平周防守家 (松井松平)	松平康映	1649 ~ 1674	〈譜代〉播磨国宍粟より転封。康映による城下整備や康官による城内庭園整備が行われる。下総国古河へ転じる。
4代		松平康官	1675 ~ 1705	
5代		松平康員	1705 ~ 1709	
6代		松平康豊	1709 ~ 1735	
7代		松平康福	1736 ~ 1759	
8代	本多家	本多忠敏	1759 ~ 1759	〈譜代〉下総国古河より転封。10年後に三河国岡崎へ転じる。
9代		本多忠盛	1759 ~ 1767	
10代		本多忠康	1767 ~ 1769	
11代	後期 松平周防守家 (松井松平)	松平康福	1769 ~ 1789	〈譜代〉三河国岡崎より7代康福が再度転封。康福、康任は老中を勤める。奥州棚倉へ転じる。
12代		松平康定	1789 ~ 1807	
13代		松平康任	1807 ~ 1835	
14代		松平康勝	1835 ~ 1836	
15代	松平右近 将監家 (越智松平)	松平斉厚	1836 ~ 1839	〈家門〉上野国館林より転封。1866年の第二次長州征伐で敗れ、美作国久米へ移り、鶴田藩と改名。
16代		松平武揚	1839 ~ 1842	
17代		松平武成	1842 ~ 1847	
18代		松平武勝	1847 ~ 1866	

浜田城の歴代城主



江戸時代の石見



浜田城跡と日本海

浜田城の築城と構造

浜田城は、標高 67 m の丘陵上に築かれた平山城で、「亀山城」とも呼ばれていました。北側は松原湾や日本海が望め、南から西にかけては浜田川が流れて、堀の役割を果たしていました。東側は内堀、外堀を設け、侍屋敷が広がっていました。

古田重治による築城は、元和 6 年（1620）には着手され、重治が家督を譲った元和 9 年（1623）までには城及び城下が整ったものと考えられます。

山頂の本丸には、^{さんじゅうぐら}三重櫓と呼ばれる天守や六間長屋などが建ち、中腹の二ノ丸に

は、二ノ門や^{えんしょうぐら}焰硝蔵、番所などがありました。東側山麓には堂々たる規模の中ノ門もあり、緊急時には家老が詰めるなど、浜田城を象徴する重要な渡門でした。三ノ丸は、東側山麓に御殿や多くの蔵、役所、番所などが建てられましたが、城地が狭かったため、これを広げて南御殿やその隣に 3 階建の高殿を建てたり、蔵を設けるなどの整備が行われました。また、浜田川が流れる西側には庭園や茶屋を設け、南側の夕日ノ丸にも茶屋をはじめ、当初は平櫓も建てられていました。



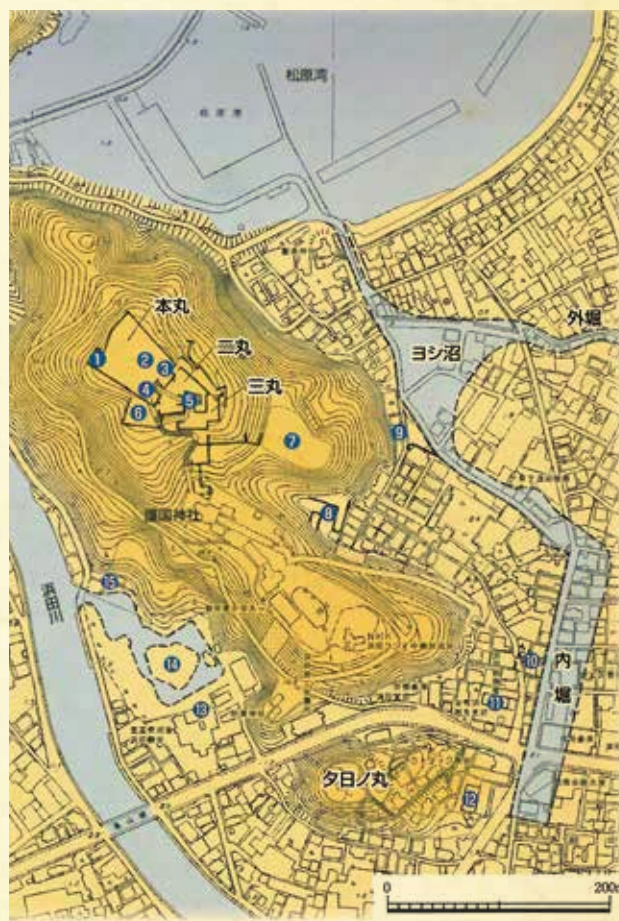
浜田川に囲まれた浜田城と侍屋敷

（復元：三浦正幸 制作：株式会社エス）



浜田県の門

津和野城（島根県津和野町）から浜田県庁の門として移築され、昭和 42 年に現在地へ移設したものです。



- | | | | |
|-------|-------|--------|---------|
| ① 三重櫓 | ② 玉蔵 | ③ 六間長屋 | ④ 本丸一ノ門 |
| ⑤ 二ノ門 | ⑥ 出丸 | ⑦ 焰硝蔵 | ⑧ 中ノ門 |
| ⑨ 裏門 | ⑩ 大手門 | ⑪ 御殿 | ⑫ 南御殿 |
| ⑬ 茶屋 | ⑭ 庭園 | ⑮ 船蔵 | |

よみがえる浜田城の姿



本丸・二ノ丸主要部周辺

(復元：三浦正幸 制作：株式会社エス)



上空から望む本丸と二ノ丸

(復元：三浦正幸 制作：株式会社エス)

左下の谷間に中ノ門があり、この谷間を登って登城していました。また、中腹の大きな曲輪^{くるわ}には焰硝蔵が設けられていました。山頂周辺は石垣と塀に囲まれ、二ノ門や本丸一ノ門などがあり、本丸の奥に天守がありました。



三ノ丸

(復元：三浦正幸 制作：株式会社エス)



浜田城図 明治4年(1871)

(石津貫治氏所蔵)

浜田城の姿を具体的に知ることのできる絵図で、三ノ丸の様子が良くわかります。



本丸
左奥に天守がそびえていました。



天守（三重櫓）
(復元：三浦正幸 制作：株式会社エス)



二ノ門と三丸の曲輪石垣
左奥の石垣が二ノ門の石垣です。



二ノ門と三丸の曲輪
(復元：三浦正幸 制作：株式会社エス)



中ノ門
中央の石垣に中ノ門がありました。



中ノ門
(復元：三浦正幸 制作：株式会社エス)

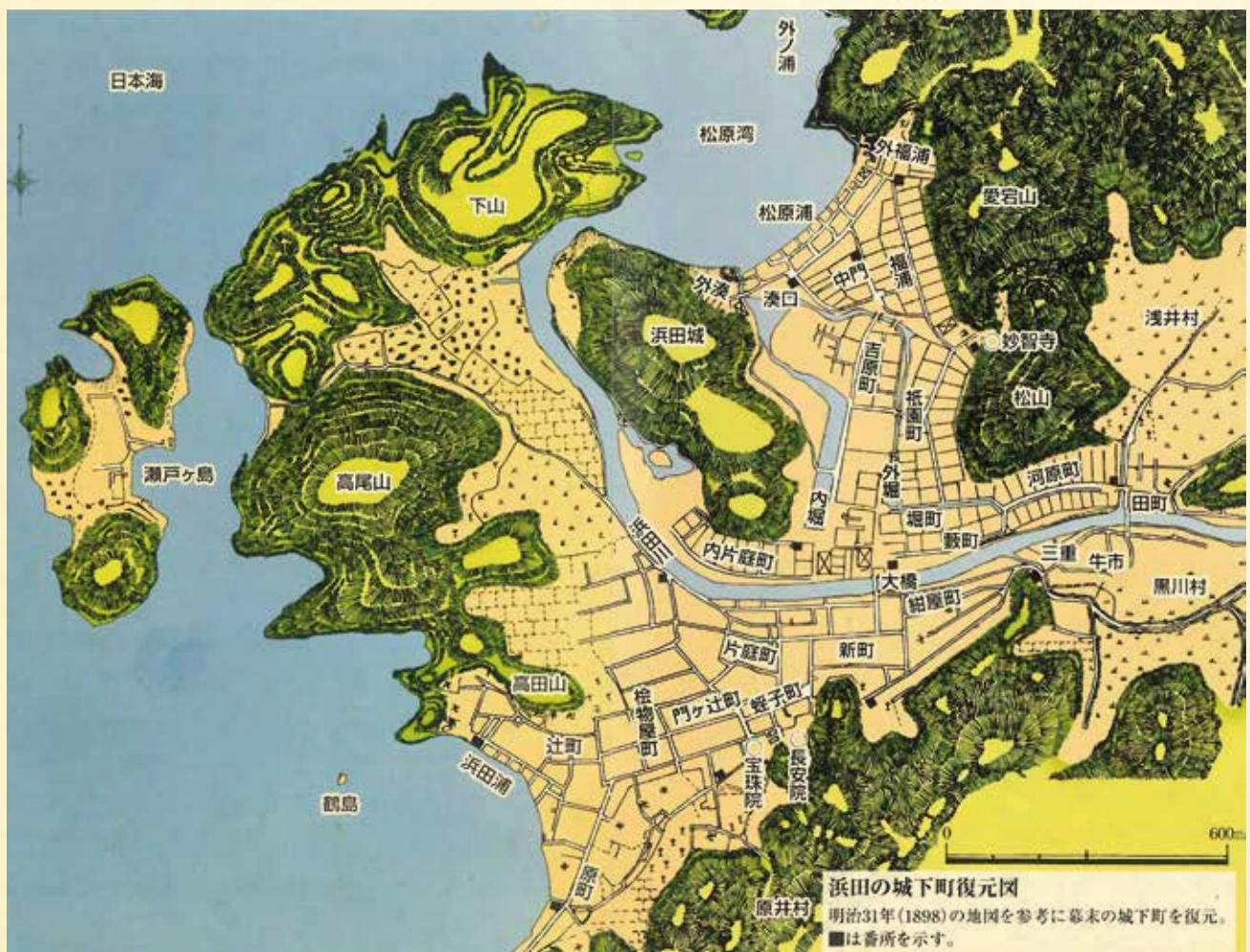
浜田の城下

浜田の城下町は、浜田川を境にして、北側に浜田城と上・中級家臣の侍屋敷が置かれ、南側には町屋や中・下級家臣の侍屋敷などが置かれました。浜田川には北側の城と南側の城下をつなぐ唯一の橋として、「大橋」が架けられ、実質的な大手の役割を担っていました。また、防衛拠点ともなる寺院は、城下町の出入口に置かれ、特に城下の西側に多く配置されています。

城下は紺屋町、新町、蛭子町、片庭町、門ヶ辻町、桧物屋町、辻町、原町から成り、「浜田八町」と呼ばれました。商人町は当初、桧物屋町、辻町一帯が中心でしたが、

松平（松井）周防守家が浜田に入ると、新町、蛭子町へ中心が移されました。新町には藩札を扱う「銀札場役所」が置かれ、蛭子町には食品、日用雑貨など、多くの店が集まり、賑わっていました。

天保5年（1834）の史料によると、町屋の総戸数は734戸で、20戸以上の業種は、米穀、菓物、洗濯、荒物、棒手、大工、日雇、畑作りなどとなっています。また、城下町東側の牛市、田町は、城下町に含まれていませんが、町として発展し、鍛冶屋、農具、金物、食堂などで繁盛していました。



浜田の港—北前船寄港地—

浜田藩には、輸出入の港として、外ノ浦、瀬戸ヶ島、長浜がありました。これらの港は、「西廻り航路」において、北陸方面と瀬戸内方面とを中継する風待ち港として、^{きたまえぶね}「北前船」などが寄港し、発展しました。

外ノ浦は、藩内最大の港で、文政8年(1825)には21軒の廻船問屋が建ち、得意先の船を記載した客船帳^{きやくせんちよう}には、全国から多くの船が出入りしていたことを知ることができます。しかし、幕末になると、土砂が流入して水深が浅くなり、瀬戸ヶ島にその中心が移りました。また、長浜は、補助的な港としての役割を担っていました。

浜田では、米・塩・砂糖・干鰯^{ほしか}（イワシを干した肥料）などが輸入され、^{こぎお}扱苧（アサの皮）・干鰯をはじめ、^{せんてつ}銑鉄や半紙、焼物などの特産品が山間部などから集められ、輸出されました。

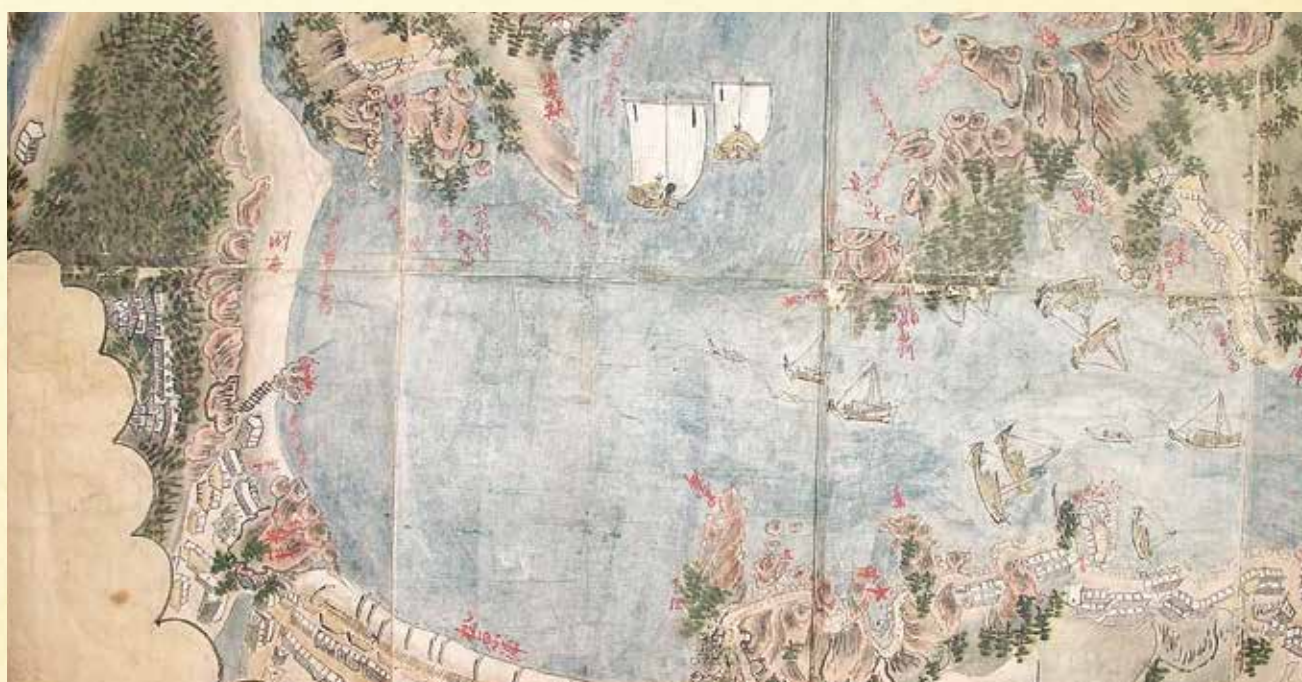


浜田の港



客船帳

(楳ヶ瀬孝氏所蔵)



浜田城と松原浦・外ノ浦の港 自唐鐘浦至長浜浦海岸絵図（一部）

(楳ヶ瀬孝氏所蔵)

浜田藩主の菩提寺

浜田には藩主の菩提寺として、宝珠^{ほうしゅ}院^{いん}、長安^{ちょうあん}院^{いん}、妙智^{みょうち}寺^じがあります。宝珠院は2代古田重恒の菩提寺で、境内には重恒の供養墓である大型の五輪塔があります。

長安院は、松平（松井）周防守家の菩提寺で、5代康員、7代・11代康福、12代康定の供養墓があります。なお、長安院は、当初、初代古田重治^{えけんじ}の菩提寺である恵賢寺が建てられていました。また、本多家が浜

田に入った10年間は、西岸^{さいがん}寺と改称されていましたが、再び周防守家が浜田に戻ると、長安院に復されました。

妙智寺は、松平（越智）右近将監家の菩提寺で、本堂裏手に右近将監家の位牌堂と16代武揚の墓所があります。武揚は天保13年（1842）に16歳で亡くなりました。浜田では唯一の本葬墓で、石扉には葵紋が刻まれています。



宝珠院（古田重恒の墓）



長安院（松平周防守家墓所）

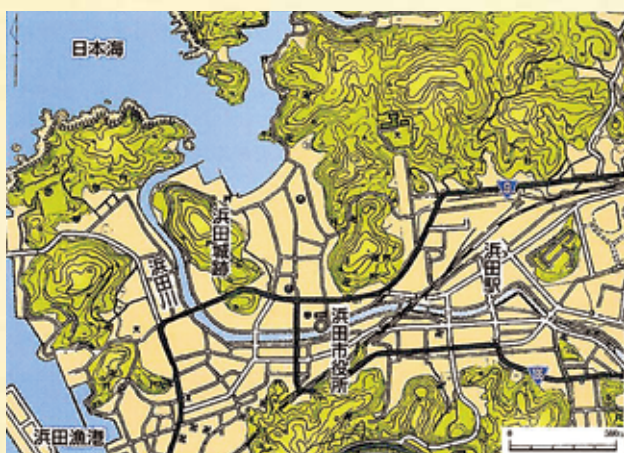


妙智寺（松平右近将監武揚墓所）



浜田藩追懷の碑

平成元年（1989）に先人を顕彰するため、浜田城跡に浜田藩追懷の碑が建立されました。この石碑には、大村益次郎を描いた歴史小説『花神』を縁に司馬遼太郎氏の碑文「浜田城」があります。



続日本名城 100 選 浜田城
島根県指定史跡

浜田市教育委員会
文化振興課

〒697 - 8501 島根県浜田市殿町1番地
TEL (0855) 25 - 9731